

天皇陛下御即位記念
四代御即位記念地図一式

解 題

令和元年十一月十六日
一般財団法人日本地図センター

国土交通省国土地理院及び建設省国土地理院（以下ともに「国土地理院」という。）並びに大日本帝国参謀本部陸地測量部（以下「陸地測量部」という。）は、大正、昭和、平成、令和の4時期において、それぞれ時の天皇陛下の御即位を祝し、これを記念して、特別仕様の地形図を刊行した。

一般財団法人日本地図センターは、国土地理院が令和元年10月22日、今上天皇陛下にかかる御即位記念地図を刊行したことを機に、これより前に刊行された全ての御即位記念地図を復刻し、令和御即位記念地図と合わせ、ここに四代御即位記念地図一式を調製した。

収録地図

- 1 大正4年10月10日 陸地測量部発行 1万分1地形図「京都近傍図」
4図葉（「東北部」「東南部」「西北部」「西南部」） **【復刻】**
- 2 昭和3年9月10日 陸地測量部発行 1万分1地形図「京都近郊」
4図葉（「東北部」「東南部」「西北部」「西南部」） **【復刻】**
- 3-1 平成2年11月12日 国土地理院発行 1万分1地形図「東京中心部」
表紙付 **【復刻】**
- 3-2 同上英語版 **【復刻】**
- 4-1 令和元年10月22日 国土地理院発行 1万分1地形図「東京中心部」
表紙付
- 4-2 同上英語版

以下、1を「大正御即位記念地図」、2を「昭和御即位記念地図」、3-1と3-2を「平成御即位記念地図」、4-1と4-2を「令和御即位記念地図」という。

仕様

- ・大正御即位記念地図 菊判（縦64cm×横94cm）7色刷り
- ・昭和御即位記念地図 同上
- ・平成御即位記念地図 四六判（縦79cm×横109cm）
表紙付折図（A4判ケース入り）8色刷り

- ・令和御即位記念地図 四六判（縦 79cm ×横 109cm）
表紙付折図（A4 判ケース入り） 多色刷り

原図価格

- ・大正御即位記念地図 4 枚 1 組 2 円 20 銭
- ・昭和御即位記念地図 1 枚 50 銭
- ・平成御即位記念地図 1 枚 1000 円（消費税 3 %込み）
- ・令和御即位記念地図 1 枚 1380 円（消費税 10%込み）

刊行経緯

大正天皇及び昭和天皇の即位の礼は、大日本帝国憲法が発布された日と同じ明治 22 年 2 月 11 日に裁定された皇室典範第 11 条の規定に基づき、大嘗祭とともに京都で行われた（注 1）。即位の礼及び大嘗祭を行う時期、期日の決定の手続き、行うべき儀式とその細目等は、明治 42 年 2 月 11 日に公布された登極令（皇室令第 1 号）の定めるところによった。登極令には、「京都ニ行幸」「東京ニ還幸」に関する規定もある。

陸地測量部は、大正御即位記念地図を大正 4 年（1915 年）10 月 10 日、昭和御即位記念地図を昭和 3 年（1928 年）9 月 10 日に刊行した。対象地域は、どちらも京都である。京都が対象地域となったのは、即位の礼が京都で行われたことによるものと考えられる。ちなみに、即位の礼紫宸殿の儀は、大正天皇の場合は大正 4 年（1915 年）11 月 10 日に、昭和天皇の場合は昭和 3 年（1928 年）11 月 10 日に行われた。

昭和 22 年（1947 年）5 月 3 日、日本国憲法が施行され、同日、現行の皇室典範（昭和 22 年法律第 3 号）が施行された。この後 2 回の即位の礼は、この皇室典範第 24 条の規定を根拠として行われた（注 2）。現皇室典範に基づく即位の礼は、天皇の国事行為として、内閣の助言と承認の下に行われたので、期日、場所、様式等は内閣が決定した。一方、大嘗祭は、皇室の行事として行われた。

平成 2 年（1990 年）11 月 12 日、現上皇陛下の即位の礼正殿の儀が、令和元年（2019 年）10 月 22 日、今上天皇陛下の即位の礼正殿の儀が、ともに宮中（東京）で行われた。国土地理院は、平成御即位記念地図と令和御即位記念地図をそれぞれ即位の礼正殿の儀が行われた日に刊行した。対象地域が東京となったのは、即位の礼が東京で行われ

たためであると解される。

注1) 皇室典範（明治22年2月11日裁定）〔抜粋〕

第11条 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

注2) 皇室典範（昭和22年法律第3号）〔抜粋〕

第24条 皇位の継承があつたときは、即位の礼を行う。

大正御即位記念地図及び昭和御即位記念地図の特色

大正御即位記念地図と昭和御即位記念地図は、京都御所付近を中央にして東西約9.1km、南北約15.3kmの範囲の地域を4面の図（「東北部」「東南部」「西北部」「西南部」）に分割して描かれている。4面の図は、大正御即位記念地図では「京都近傍図」と、昭和御即位記念地図では「京都近郊」と総称されている。大正御即位記念地図は、明治42年（1909年）測図の2万分1地形図（正式図）を2倍に拡大して基図とした。昭和御即位記念地図は、これに必要な修正をして作製した。

図式という観点から見れば、大正御即位記念地図は、基図が明治42年測図の2万分1地形図であるから明治42年式地形図図式を基本としているが、多数の色を用いて彩色をしているため、カラフルで華やかなものとなっている。地形は、等高線とケバを併用して表現し、家屋のうち、皇室関係建物、官公署、大学・学校、病院、寺社等特定のものには赤色のベタで、その他の一般家屋は総描して朱色の斜線で示している。道路は、郊外では黒色で表示しているが、市街地では道路縁を総描建物の外縁で兼ねさせ、面的な表現となっている。樹林、耕地等は、種別による記号を描示した上で、大まかな色分けをしてその分布する範囲を示している。

昭和御即位記念地図は、色づかいが大正御即位記念地図とほぼ同様であるため、見た目はこれとあまり変わらない。しかし、大正御即位記念地図の刊行後に大正6年式地形図図式が制定されたため、田の記号が乾田の記号と水田の記号とに分けられて表示されるなど、若干の表現上の違いがある。

内容的に見れば、昭和御即位記念地図は刊行前の修正測量の成果を取り入れているが、既に市街化している京都中心部の様相に大きな変化がなく、両図で差異のある内容は限定的である。この間の大きな変化としては、京都駅以東は現在の奈良線を走行していた東海道本線が真東の東山トンネル方向へ進路を変更したこと、出町柳駅を始

点とする叡山電鉄が開業したことが挙げられ、その結果が昭和御即位記念地図に反映されている。昭和御即位記念地図では、「東北部」の図の右図郭の一部が延伸され、修学院離宮が表示されているが、その部分は大正御即位記念地図にはない。

平成御即位記念地図の特色

平成御即位記念地図は、皇居付近を中心に東西約 10.2km、南北約 7.3km の範囲を対象としている。基図は、昭和 63 年（1988 年）～平成元年（1989 年）に修正測量が行われた 1 万分 1 地形図「上野」「日本橋」「新橋」「池袋」「新宿」「渋谷」の 6 図葉を用いている（図 1）。四六判 1 枚の図が四つ折で 16 分の 1 の大きさになり、A4 判のケースに収められている。

敷地（ベース）の色をクリーム色とし、他に青、グリーン、濃セピア、セピア、濃紺、赤紫、黒の各色を使い、カラフルではあるが落ち着いた感じになっている。建物を公共建物、商店街における建物、3 階以上の建物、普通建物に区分するなど、経済成長を成し遂げた首都東京の姿を表現する意図が窺える。国際化時代に対応し、英語版も作成された。

図 1 平成御即位記念地図の索引図

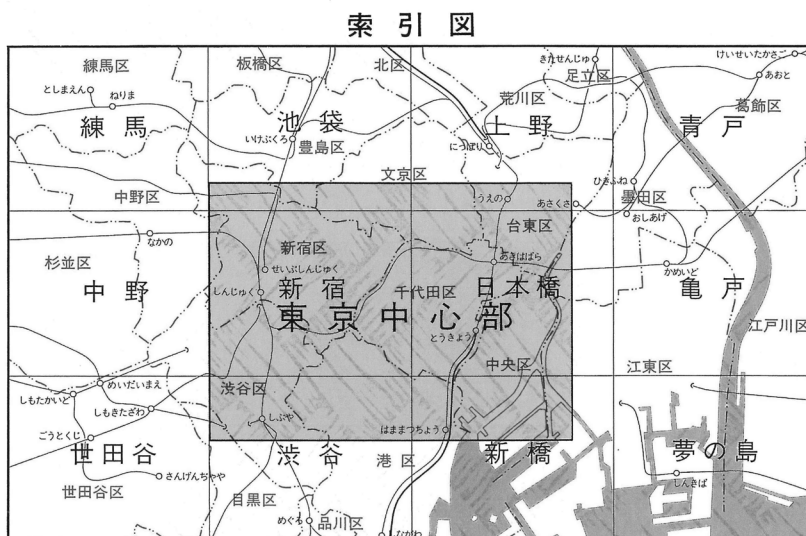


図 1 平成御即位記念地図の地図化対象範囲と基図（1 万分 1 地形図）の図郭割り

令和御即位記念地図の特色

表示対象地域は、平成御即位記念地図とほぼ同一であり、東西約 10.2km、南北約 7.4km の範囲となっている。四つ折り、ケース入りであることも平成御即位記念地図と同様である。天皇陛下御即位時における首都東京の姿を地図として後世に残すとともに、令和元年の東京の様子を国内外にわかりやすく伝えることを目的として、数値地図（国土基本情報）、空中写真、航空レーザ測量データ等を利用するとともに、必要に応じて現地調査も行って作成された。

建物は、首都機能の特徴づけるため、公共建物、文教建物、普通建物に区分して色分けをするとともに、高層化した都市の概観を表すため、高さに応じて階調と影を用い、立体的に表現している。建設中の建物の記号も設けられ、令和 2 年（2020 年）に開催される東京オリンピック・パラリンピックで使用される予定の国立競技場は、この記号で表示されている。図郭内に多数存在する大使館は、首都機能を示す観点からも、旗をかたどった記号を付加し、外務省が公表している国名どおりに注記している。公園・樹林は、緑が多く残された都市を表すため、樹高に応じて緑の濃淡を変えて表現している。日本の伝統色（和色）を使用し、淡い色の配色としたことから、平成御即位記念地図とは違った印象を与えるものの、やはり全体として落ち着きのある趣の地図となっている。印刷後に周囲を裁ち落とすことによって図郭外の全てを濃緑色に彩色したことも、地形図その他国土地理院や陸地測量部がこれまでに刊行した地図に見られなかった特色である。平成御即位記念地図と同様に、英語版も刊行された。地図の右上部に鳳凰をかたどった刻印が押印されていることも、平成御即位記念地図と同様である（図 2）。



図 2 令和御即位記念地図の刻印図柄

